

岐阜県立森林文化アカデミーの

国有林実習で実験林等を案内

【森林技術・支援センター、

岐阜森林管理署】

六月二十五日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において、岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科二年の学生十五名が、国有林の施業について、現地実習を行いました。

始めに、当センター及び岐阜署の職員から、実験林や試験地等の概要について説明し、その後、乗政国有林において、「ヒノキ長伐期施業



ヒノキ長伐期施業林の見学状況（乗政国有林）



ヒノキ間伐実験林の見学状況（小川長洞国有林）

林」を見学しました。

この施業林は平成二十八年度に製品生産請負事業で間伐材を搬出した箇所であり、岐阜署の職員から林齢が百年を超えるヒノキ人工林の間伐や木材販売について説明しました。

この箇所では樹冠や林床の状況を確認し、今後の施業方法について意見交換が行われ、学生からは「部分的に立木密度の高い箇所があるので、そのような箇所について間伐を行う。」「百三十年生まで待つて、皆伐を行う。その後の植栽で

は、木材需給も考慮してヒノキ以外にも植栽樹種として検討する。」等の意見が出されていました。

次に、小川長洞国有林の「ヒノキ間伐実験林」では、間伐率が異なる試験地を見学し、間伐の効果やプロット毎の優劣、今後の伐採方法等について、学生同士の意見交換が行われました。

それぞれの専攻分野に応じた様々な意見が出される中、当センター職員からは実験林の研究成果や今後の施業方針について説明を行いました。



温帯性針葉樹の天然林の見学状況（小川長洞国有林）

続いて、民有林ではあまり見ることが出来ないコウヤマキ等の温帯性針葉樹の天然林を見学しました。梅雨の時期でしたが、雨も降らず比較的過ごしやすい中、充実した実習となったようです。今後も学校等からの要請に応じ、国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。